

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性評価システム (2016年7月改訂) | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本ガイシ株式会社(仮称)熱田新研究開発棟	階数	地上4F
建設地	名古屋市熱田区六野一丁目307番地	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	195人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,976時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年9月8日
敷地面積	8,465 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	4,214 m <sup>2</sup>	確認日	2023年9月8日
延床面積	12,367 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.9

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.7

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 4.0

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 4.1

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.9

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の低減に努めている。		
<b>Q1 室内環境</b> ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、室内の良好な空気環境の確保を図っている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握して、消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性の確認が可能である。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・燃焼設備を設けず、建物からの大気汚染物質発生に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

日本ガイシ株式会社(仮称)熱田新研究開発棟

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>4.7</b>
LR1	エネルギー	4.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>3.5</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.109287619	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.010928762
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.054643809	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.6</b>
LR2.1	水資源保護	3.6	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 4.7	
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 3.5	
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 3.6	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。